

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年11月13日

【評価実施概要】

事業所番号	2770104251
法人名	社会福祉法人 エージングライフ福祉会
事業所名	グループホームクレーネ堺
所在地	堺市中区福田339番地2 (電話) 072-230-5288
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 10月 31日

【情報提供票より】(平成 20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 10月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	10人	常勤	10人, 非常勤 0人, 常勤換算 9.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) <input checked="" type="radio"/>	無 <input type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> (200,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500円		

(4) 利用者の概要 (平成 20年 9月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	1名	要介護2	7名		
要介護3	6名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.8歳	最低	73歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クレーネ堺診療所
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体の社会福祉法人が3階建ての特別養護老人ホームと併設で、1階部分にグループホームを設立しました。法人玄関とは別にホーム専用の玄関があり、家庭的な暖かみのある落ち着いた雰囲気となっています。居室は和室で居心地の良い空間となり、居室からは外へ自由に出入りができます。また、診療所も併設され、特別養護老人ホームの看護師との連携、週4回主治医が来訪されるなど充実した医療体制により安心した生活が送れるようになっています。恒例の花火大会には屋上を開放し、屋台などの催しを行い地域の方も参加し交流を図っています。地域の保育所との交流会や高校生のボランティアの受け入れも積極的です。「プライバシーの尊厳」や「自立支援」を常に考えながら「その人らしさ」を引き出せるよう職員もサービスの質の向上に取り組んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目: 外部4)</p> <p>前回の評価結果を職員全員に配布し、その項目についての意見や改善点を各自検討してもらった上で、その内容を踏まえ職員会議で検討しています。具体的には利用者一人ひとりの思いや意向については、その方の生活歴や身体、精神状況を把握し「その人らしさ」を引き出し、寄り添っていきけるような支援を心がけています。入浴回数もほとんどの利用者が週3回入浴できるような配慮を行っています。鍵も日中は開錠し自由に入出りができるようになっています。同業者との交流に関しては、同区内の事業所と参加交流する機会を設け、事業所同士のネットワーク作りや情報交換を行い、日々のサービスの質の向上に役立てています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>各ユニットの計画作成担当者がそれぞれの職員に意見を聞き、職員会議などで話し合われたことを管理者と相談しまとめています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヵ月に1回定期的に開催しています。参加者は自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表などが参加しています。会議ではホームの活動状況報告や自治会長から地域での行事案内など、情報交換をしています。また家族からの意見や意向などの表出も多く、改善に向けて前向きに検討し取り組んでいます。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>毎月1回クレーネニュースを発行し、月の行事予定やホームでの暮らしぶりについて写真を添付したものなどを家族へ送っています。それ以外に体調不良時などは電話連絡しています。預かり金のある利用者の家族には、レシートや領収書の原本を郵送しています。玄関先には意見箱を設置していますが、家族からの意見が出にくいいため、家族の来訪時にできるだけ話せる機会を作り意見など言いやすい配慮をしています。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>自治会長から行事案内や地域情報を提供してもらい、地域の運動会や小・中学生の登校時の見守り隊に当番制で役割を担当するなど地域の一員として参加しています。地域の保育所から園児たちの来訪や地域の高校で行われている菊花展を見に行くこともあります。また、大正琴やスチールギターの演奏ボランティア、将棋の好きな利用者の相手に近所の方の訪問があります。また一大イベントとしてPL花火大会の日は、地域の方が自由に参加でき、屋上で法人主催の屋台を振る舞うなど交流が図られています。</p>
重点項目④	

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重し、総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する事」を法人全体の理念とし、より具体的に①高齢者の人権を尊重する。②高齢者の立場に立ち、共感的態度で接する。③高齢者が安心感、信頼感が得られるよう接遇の基本を守り対応する。④限りある資源を大切にマネジメントする。の4つの目標項目を掲げ「その人らしさ」を大切に、一人ひとりにあった支援を心がけています。ホーム独自の理念を、更に利用者や家族に理解しやすい言葉で作り上げ伝えてはいかげでしょうか。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	具体化された4つの目標について、職員がそれぞれ日々の実践の中で気がついたことや達成度・評価などを行い、半年に1回職員会議などで話し合われます。会議ではホーム独自の目標をより具体化し、日々の業務につなげています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域の運動会や、小・中学生の登校時の見守り隊に当番制で役割を担当するなど、地域の一員として参加しています。毎月隣接する保育所から園児が来訪し、遊戯の披露や地域の高校で行われている菊花展を見学に行くこともあります。その際、高校生が車いすを押してくれることもあります。ボランティアによる大正琴やスチールギターの演奏が年2回あります。近所の方が将棋の好きな利用者の相手をしに週2回訪問しています。また一大イベントとしてPL花火大会の日は、屋上で法人主催の屋台を振る舞い、地域の方が自由に参加でき交流を図っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を全職員に配布し、項目についての意見や改善点を各自検討しています。その内容を踏まえて職員会議で検討し、改善点については積極的に取り組み、改善しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回開催していません。参加者は自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表などが参加しています。会議ではホームの活動状況報告を行い、自治会長から地域での行事案内をもらい情報交換をしています。また家族からの意見や意向は真摯に受け止め、話し合い、検討し改善できるよう取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市へは、困難事例や事故報告は迅速に報告し、対応や指示を仰いでいます。地域包括支援センターのグループホーム担当者にも相談しており、連携が取れています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回クレーネニュースを発行し、その月の行事予定やホームでの暮らしぶりについて写真を添付したものなどを送っています。体調不良時などは電話連絡することもあります。預かり金のある利用者の家族には、レシートや領収書の原本を郵送しています。しかし家族の確認のサインや捺印は確認できませんでした。	○	領収書の送付はできていますが、家族の来訪の際には、確認サインと日付を書面で残すことが求められます。
8	15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先には意見箱を設置しています。しかし家族からの意見はなかなか頂くことができないため、家族の来訪時にできるだけ話せる機会を作り、意見など言いやすい配慮をしています。		
9	18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替えが多いと利用者が不安になることがあるため、新人職員には先輩職員が担当し、利用者の不安を軽減しています。新しい職員が入る場合は利用者に紹介していますが、家族に対しても、毎月発行される便りに掲載するなど、報告していくことが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修・勉強会が毎月行われ、出席できる職員は参加しています。参加できなかった職員にもホームで研修内容を伝達し情報の共有を図っています。「緊急時対応」「認知症」「感染症」の研修記録もあります。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市中区のグループホーム12か所が参加し、2ヵ月に1回交流する機会を設けています。事業所同士のネットワーク作りや情報交換を行い、日々のサービスの質の向上に役立っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時にはできるだけ自宅を訪問し、面接を行っています。ショートステイの利用も可能で少しずつ馴染みの関係作りができるようにしています。入居して不安な時には家族と一緒にいてもらったり、一旦自宅に帰宅してもらおう等、無理のないよう工夫しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	若い職員は、洋裁や編み物が得意な利用者に毛糸で靴下の編み方を教わり、一緒に趣味を楽しんでいます。またベランダできゅうり等を栽培し、野菜の作り方を教わることもあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の今までの生活歴や思いなどをできるだけ把握し、利用者一人ひとりにあった支援ができるよう努力しています。少しでもその方の持っている能力や得意分野が引き出せることができる支援を心がけています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員全員でカンファレンスなどを行い、相談し話し合っ作成しています。モニタリングも毎月行われ記録されています。作成された介護計画は職員全員が確認し、サービス内容については職員が毎日チェックすることで利用者への支援の再確認ができ、質の高いサービスの提供に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヵ月に1度は介護計画の見直しを実施しています。見直しの際にはカンファレンスを行い、現場の職員の意見も考慮し見直しが行われています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特別養護老人ホームの看護師が体調不良の利用者の様子や、服薬に関して相談にのり、安心な生活の維持を支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が近所のクリニックをかかりつけ医とし、週4回ホームに往診があり、定期的に体調確認しています。日曜・夜間など緊急時にも連絡を行い、指示を仰ぐなど連携体制がとれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に関して、ホームの方針などを家族に説明し書面でも意向について確認しています。家族、主治医を交え話し合い連携が取れています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入社時には個人情報の取扱いについて契約書の中で明文化し、書面で取り交わしています。利用者には丁寧な言葉かけや態度でやさしく接していました。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の日課に沿って過ごすのではなく、利用者の思いや体調に合わせてできるだけ個々に対応し、利用者のペースを大切にしながら支援しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には併設の特別養護老人ホームの厨房で食事を調理し、職員と利用者が一緒に食事を取りに行っています。盛り付け、配膳、下膳が可能な方は職員と一緒にしています。月に2回程度はメニューを利用者と共に考え、食事作りを楽しんでいます。お茶を入れる、テーブルを拭くなど、利用者がそれぞれ役割を持ち、力を発揮できるよう職員は働きかけています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決まらずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニット毎に入浴の曜日が決まっており、週3回入浴ができています。毎日の入浴を希望する利用者がいれば対応は可能です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝廊下や窓拭きを積極的に行い、それが日課となり張り合いのある生活を送る利用者がいます。食後も台所のモップがけや、翌日のメニューをホワイトボードに書くなどの役割を利用者に担ってもらうことで意欲が出るような働きかけができています。写真撮影の好きな利用者は、外出し写真を撮ることを楽しみにしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	おやつや日用品の購入希望があった場合、職員は利用者と共に買い物へ出かけています。美容室などにも一緒に出かけることがあります。外出を好まない利用者には職員がさりげなく声をかけ、その方の好きなことの話で外出するきっかけ作りをしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は1階で自由に外へ出ることができます。玄関の自動ドアは開錠しており、出入りが自由です。外へ出られる方もいますが、センサーでキャッチするとともに、目配りを行い利用者の状況を見ながら声かけや、職員と一緒についていくなどして安全面に配慮しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時マニュアルを作成し職員にも周知しています。年2回の避難訓練のうち1回は消防署の協力を得て取り組んでいます。災害時の備蓄については法人と同じ場所に保管しているため、今後は運営推進会議等で災害時の地域協力の働きかけと、ホーム独自の非常時の備蓄も検討されてはいかがでしょうか。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の特別養護老人ホームと共有の栄養士が食事のカロリー計算を行い、専門的アドバイスをもらっています。刻み食やミキサー食の対応も個々に合わせて行い、食事摂取量を把握しています。水分量の制限が必要な方には水分摂取量をチェックしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはソファや椅子が置かれゆつくりと自由に過ごすことができる配慮ができています。廊下には絵画が得意な利用者の絵や、他にも書道などの作品や手作りカレンダー等を飾っています。書道の文字が季節はずれのものがありましたので、季節感を出すためにもその時期にあった内容のものにしたり、季節の花などを飾ってみたりしてはいかがでしょうか。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を入ると入口付近には洗面台があり、畳敷きの居室となっています。使い慣れたタンスや椅子の他に、以前利用者が自身で描いた絵画や家族写真を飾っています。コタツを使用している利用者もおり、職員は思い思いに安心して過ごすことができる環境作りに配慮しています。		